

大会時・コロナ禍での取組

- ・2014年頃：書類等の電子化を開始
- ・2020年3月：2020TDM推進プロジェクト登録
東京2020大会に備えて、取組の検討を開始
- ・2020年4月：緊急事態宣言後、できるところから取組開始

人の流れ

きっかけ

以前より実施

オリパラ

コロナ禍

- テレワーク・・・実施率最大約9割（現在は通常勤務）
- 会議等のオンライン化・・・社内会議をオンライン化
- 書類等の電子化・・・従前のシステムを活用。大会前には電子押印の仕組みも導入

物の流れ

きっかけ

以前より実施

オリパラ

コロナ禍

発注回数の調整

※緊急事態宣言下では国内および国外への出張も禁止。
主にオンライン会議等を多用して調整

取組ポイント

- トップダウンで書類の電子化を推進
- オンラインでの懇親会など、業務以外でも社員間のコミュニケーションを確保

取組ポイント

- 主にオンライン会議を多用して対応

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

会議等のオンライン化

※テレワークについては、現在は通常通りに戻っているが、今後また緊急事態宣言が発出されれば、再び実施

物の流れ

発注量をまとめる等、発注回数の低減

【東京2020大会を振り返って】

- ・取組は、（一社）日本テレワーク協会の資料やテレビ、インターネット等から得られる情報をみながら実施していた。
- ・2020TDM推進プロジェクトからの各種情報についても見てはいたが、自社は競技会場からも離れており社用車もないため、実状を把握し、営業等と共有する程度の利用だった。